

松田町立寄小学校

研究テーマ：「つながり」を深める子をめざして～言葉による見方・考え方を働かせる授業づくり～

1 実践の目的

小規模校という特性を生かした教育活動を展開し、授業においても児童が安心できる人間関係の中で学習を進めていけるよう日々の研究に努めている。これまで「つながり」をキーワードとして研究を進めてきた。

昨年度、「子どもが切実に課題に向かう姿」という点で課題が残った。児童にとって与えられた課題は、自分の考えを持てなかったり、そもそも何について考えたらよいのか自分事として捉えられなかったりするなど、教師主導の授業になりがちである。児童の「したい」「なりたい」「考えたい」といった思いを十分に引き出すことが求められる。

そこで、子どもの思いに添った学習課題の設定を吟味し、考えを深め合える対話的活動を設定し、深い学びを意識した実践を積み重ねていきたいと考えた。また、単元の言語活動を意識することで、学んだことを生かし、より深い学びを実現できる。児童の実態に合った言語活動の設定をめざした。

2 実践の内容

(1) 児童の実態とめざす姿の明確化

ア 学びアンケートの活用

学期毎に「学びアンケート」を児童に実施した。アンケートの項目は、①先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。②授業で、「～したい」「～なりたい」「～を考えたい」といった気持ちをもっていますか。③授業では、めあてに向かって、自分で考え、自分から取り組んでいますか。

④授業では、めあてに向かって、友達と話し合っていますか。⑤学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。の5点である。



<学びアンケート 質問2の変容>

1：そう思う 2：どちらかといえばそう思う
3：どちらかといえばそう思わない 4：そう思わない

そのうち、質問②について、6月と12月を比べると、全児童が肯定的な回答に変容した。「子どもが切実に課題に向かう姿」を追求したことで生まれた変化であると考えられる。

アンケートを実施することで、児童の実態を把握し、どんな授業構成を組んでいくか考える一助となった。また、否定的な回答があった点については、担任が声をかけて、その児童の思いを聞き取ることができた。

イ 指導案への明記と全体協議

「学びアンケート」を生かし、指導案に「個の実態とめざす姿」を明記した。それにより授業者は、児童一人ひとりの実態を意識し、児童に合った具体的な手立てを検討することができた。さらに、学習が進むにつれて児

童の変容が明確になり、個々の成長を感じることができた。また、事前検討会で実態とめざす姿を職員間で共有し、本時後の全体協議で「ねらいに対する児童の姿はどう変容したか」という視点を新設したことで、個々の変化をとらえることができた。

今後も少人数の利点を生かし、より児童と向き合って実態を把握し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をめざして適切な手立てや配慮を選択・実践していくことに努めていきたい。

(2) ICT を活用した研究の充実

授業支援システム（C-learning）や Google Classroom を活用して授業実践や日頃の悩みを職員間で共有してきた。研究授業の当日のみ協議を行うのではなく、日頃から授業に関することを話題に挙げ、全職員で授業力向上に努めてきた。

さらなる活用を目指し、学びになったこと、悩み、上手くいった実践などカテゴリー化し、より活発に使用してきた。また、研究している国語科にとどまらず、他教科で気になったことや疑問に思ったことを投稿し、交流を図った。

研究を深めていく上で、日頃から授業について職員間で話し合うことは大変重要である。こうした機会は職員の「より良い授業をしたい」という思いを高めることにつながる。今後も職員同士で授業力を高め合おうという意識の向上に役立てていきたい。

6月27日 4年国語	公開	スレッド作成 コメント 返信	18	3,963	36.0MB
6/27の校内研に際しての交流しよう					
勉強になった！コーナー	公開	スレッド作成 コメント 返信	12	4,502	21.3MB
本を読んで知ったこと、出逢で学んだことなど、自分が「なるほど！」と思ったことは、こちらで共有しよう。					
上手くいった！コーナー	公開	スレッド作成 コメント 返信	5	2,001	916.0KB
へんな事でもしたら、子どもが理解できた！楽しそうだった！手ごたえがある！そういえば、事例はこれから共有してください。					
悩んでいます！コーナー	公開	スレッド作成 コメント 返信	1	969	
授業や学習風景上の悩み、～したいんだけど上手くいかない、～のとまどうすればいいの？困ったことは相談してみよう。					

＜カテゴリー化された校内研究掲示板＞



＜授業予告の投稿と参観者のコメント＞

3 実践の成果と課題

(1) 児童の実態に合わせた手立て

「高学年はこの語句を知っていて当たり前だろう。」「低学年は1場面ごとに読み取らせるべきだ。」こうした固定概念は児童の実態を見えにくくしてしまう要因となりうる。そうした固定概念に囚われることなく、目の前にいる児童と向き合い、その子に合った手立てを実践していくことが重要であると考え。そのように考えたとき、手立ては一般的なものではなく、その学級や個に合ったものであり、教師はその都度適切な手立てを選択していくことが重要といえるだろう。

例えば、叙述よりも挿絵に注目しがちであった1年生に動作化という手立てを行った。思い思いに動作化する児童に「どうしてそのように動いたの。」と問いかけ、叙述に目を向かせることで、丁寧に読み進めることができた。この活動を繰り返すことで、児童の理解は深まり、次第に自発的に叙述に目を向けることができた。

指導案に「児童の実態とめざす姿」を明記したことは、授業者が児童と向き合うことに大いに役立った。研究授業のように長い時間をかけて教材研究を行っている、没

どの教科においても、日々の授業の中で、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を職員同士が連携し合いながら行っていきたい。そのためにも、ICTを活用した情報交換や協議、職員室で授業や児童のことを話し合える雰囲気づくりを大切に、今後の研究に向けて努力していきたい。